

◎ 地域に根ざした学生たちの活動支援 — 地域連携学生プロジェクト2015 採択選考会

4プロジェクトが始動！地域連携学生プロジェクト採択決定！

5月27日(水)、地域に根ざし、地域に学び、地域の課題解決を目指す学生たちの自主的な取組を募集し、支援する「地域連携学生プロジェクト2015」の選考会が行われました。

事前提出の申請書と当日のプレゼンテーションの合計点で審査が行われ、今年は、継続プロジェクト2件、新規プロジェクト2件の合計4つのプロジェクトが採択されました。

- ① 京都文教大学バスツアーズ【新規】・・・向島ニュータウンの独居高齢者を対象に、参加者に寄り添ったバスツアーを企画！
- ② 響け！元気に応援プロジェクト【新規】・・・宇治を舞台にしたアニメ作品「響け！ユーフォニアム」を通して、作品とまちを繋ぐ取組を行います！
- ③ 宇治☆茶レンジャー【継続】・・・今年で6年目のプロジェクト。宇治茶の魅力を幅広い世代に発信します！
- ④ 商店街活性化隊 しあわせ工房 CanVAS【継続】・・・宇治橋通り商店街と連携し「笑店街」づくりに取組みます！



①「バスツアーズ」メンバー



②「響け！」プレゼンテーションの様子



③「宇治茶」プレゼンテーションの様子



④「CanVAS」メンバー

◎ 春学期プロジェクト科目「合同成果発表会」

地域や社会の課題解決に取り組みました！



7月18日(土)、2015年度春学期プロジェクト科目「合同成果発表会」を開催し、今学期開講の8クラスが集い、授業を通しての学びやそこからの気付きについて発表しました。

当日は台風11号の影響で激しい降雨のなかでの開催にもかかわらず、学内外あわせて約100名の方々にご参加いただき、会場では受講生を中心に活発な質疑応答が繰り広げられ、大変盛り上がった「合同成果発表会」となりました。



- 【最優秀賞】※第1位
『『大学生のファッション観』調査』クラス(担当教員:武田克己)
- 【優秀賞】※第2位
「仲間と伸ばそう！リーダーシップ」クラス(担当教員:岸岡洋介)
- 【優良賞】※第3位
「企業における経営理念探究」クラス(担当教員:藤原淳二)

イベント開催のお知らせ

子どもからご年配の方、障がい当事者や留学生など、様々な人が集い、交流できる地域のみなさんを対象とした大学開放イベント！

ともいき(共生)フェスティバル 2015

- 日時:2015年11月28日(土) 11:00~16:00
- 会場:京都文教大学 サロン・ド・パドマ 他
- お問い合わせ:京都文教大学フィールドリサーチオフィス



出展者 大募集! ※出展無料

ワークショップ、展示、模擬店、物販、ステージ...このイベントでは、地域のみなさんが日頃から取組まれていることや、得意なことを持ち寄り、発表や販売を行う「ともいきブース」の出展者を募集しています。出展を希望される方は、問合せの後、9月25日(金)までにお申込ください。

【募集内容】 a.ワークショップ・体験コーナー b.展示 c.模擬店 d.物販 e.ミニ講座 f.ステージ g.その他

【募集ブース数】 全20ブース程度

※a~dの基本的なスペースは、1ブース当たり約1.5m×約1.5m(長机1つ×2個)です。

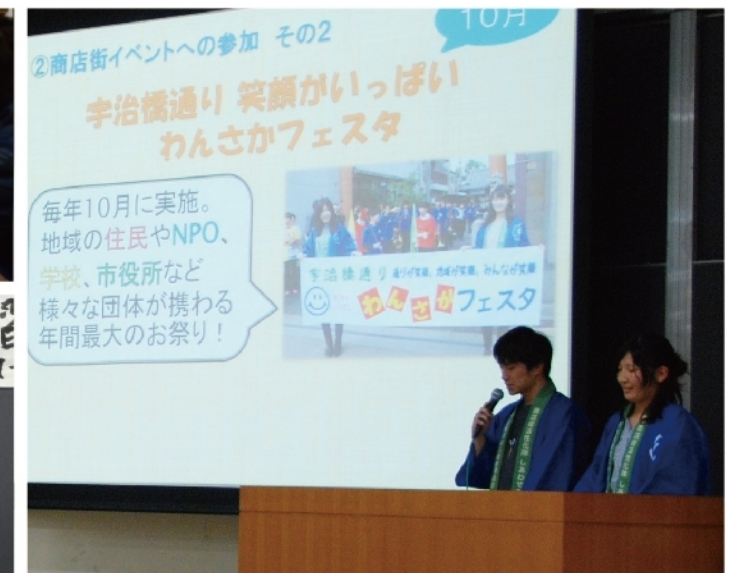
※それ以上のスペースを要する場合は、申込み用紙に必要なスペースを記載ください。

※e~gについては、別途相談(別会場を用意いたします)

京都文教大学 地域協働研究教育センター

ニュースレター **ともいき** vol.3
TOMOIKI 2015年7月発行

「京都府南部地域 ともいき(共生)キャンパス」でのさまざまな活動をお伝えます。



平成27年度 地域志向協働研究 共同研究プロジェクト
平成27年度 地域志向教育研究 ともいき研究助成事業(住民参画型/産官学協働型)

地域を志向した研究を推進! 地域とともに「協働研究」に取り組めます。

地域における本学の教育、研究、社会貢献活動を一体化し、その成果を本学の教育活動や地域の発展に還元、寄与することを目的に、2014年度から新たに「地域志向協働研究」「地域志向教育研究 ともいき研究助成事業」を学内・学外から募集し、今年度は計20の共同研究プロジェクトが採択されました。「地域志向教育研究 ともいき研究助成事業」では、自治体職員、団体・企業、地域住民が研究員として参画する「住民参画型」ならびに「産官学協働型」の共同研究を募集し、地域課題に取り組んでいます。「地域志向協働研究」も研究分担者として、学外から客員研究員を招聘することができ、地域との「協働研究」を推進しています。

今年度採択された研究について、研究概要と、共に研究に携わる研究分担者や協力者の地域のパートナーのみなさんをご紹介します。

プロジェクト1
地域志向協働研究

宇治・伏見地域の観光資源開発と地域振興

学内研究員
6名

研究代表者: 片山 明久 (総合社会学部総合社会学科 准教授)

本研究の目的は、地域の観光資源を充実化し、地域振興につなげるプロセスを実践的に検証することで、観光と地域の関係についての理論的深掘りを図ります。これまでの本学の取り組みを検証しながら、新たな観光資源開発を模索し、地域振興につながるスキームを地域パートナーと共に考えていきます。2015年度は、「地域連携観光まちづくり研究会」の開催や先進事例地区への視察、ノベル・コンテンツ・ツーリズムの可能性を探り、地域間の情報や問題意識の共有を図ると共に、先進事例を研究し、観光連携の知見を深めていきます。

地域パートナー
多田 重光さん(公益社団法人宇治市観光協会 専務理事)



宇治と伏見は共に多くの観光客が来られる場所です。両地域は、歴史的景観が残る町並みや水を活かしたまちづくり、また近年ではアニメの舞台として、同じテーマ性を持った周遊観光の可能性を秘めた場所でもあります。この研究会での取り組みが、これからの両地域の観光振興に道を拓くことを期待しています。

プロジェクト2
地域志向協働研究

京都南部・向島地域のニュータウンにおける大学・住民協働のまちづくり研究

学内研究員
8名
学外研究員
3名

研究代表者: 杉本 星子 (総合社会学部総合社会学科 教授)

高齢化と多文化化が急速に進む近鉄向島駅周辺ニュータウン地域における住民の生活実態の現状把握と地域の諸問題の明確化および問題解決に向けた実践的研究活動を、本学教職員・地域住民・地域の諸団体の協働により実施することによって、より暮らしやすいまちづくりに向けた地域ネットワークの構築に寄与するとともに、本学の地域貢献を推進することを目指します。今年度は、地域住民と共に地域包括ケア案の策定や子どもの貧困への支援、地域防災への活動の充実化などに取り組みます。

地域パートナー
福井 義定さん(向島駅前まちづくり協議会 会長)



この度、研究会員として向島ニュータウン向島駅前まちづくり協議会より選出していただき有難うございました。昨年、当研究会のご協力により発刊することが出来ました「第1回向島ニュータウン駅前・健康福祉のまちづくりアンケート調査結果報告書」で浮き彫りにされました課題解決の推進に向けて取り組みたいと思っています。研究会が地域の生の意見を反映し、課題の道筋、解消に繋がることを期待しています。

プロジェクト3
地域志向協働研究

官学連携による「宇治学」副読本作成と現場での活用に関する研究

学内研究員
5名
学外研究員
2名

研究代表者: 橋本 祥夫 (臨床心理学部教育福祉心理学科 准教授)

宇治市の小・中学校では、総合的な学習の時間を「宇治学」と称して、地域の文化や伝統に対する関心や理解を深める取組がなされています。

本共同研究プロジェクトでは、「宇治学」の更なる発展の為、宇治市教育委員会と本学が共同(協働)して、「宇治学」副読本の作成に向け、研究活動を推進しています。「宇治学」の活性化によって、児童生徒が、地域社会の一員としての自覚を持って「ふるさと宇治」を愛し、よりよい宇治を築こうとする自主的、実践的な態度を育んでいけるよう、取組の充実・進化を図っていきます。

地域パートナー
市橋 公也さん(宇治市教育委員会一貫教育課 副課長)



「宇治学」副読本の作成により、次のような児童生徒を育成します。より良い宇治や将来の生き方について考え行動する子ども、主体的、創造的、協同的に探究学習に取り組む子ども、自学自習の学び方を身に付ける子ども、見通しを持って学習する子ども。全国的に、探究的な学習を十分に進めている学校、児童生徒ほど学力が充実していることが検証されています。「宇治学」の充実が宇治市の児童生徒の学力向上に繋がることを期待します。

プロジェクト4
地域志向協働研究

子どもたちを豊かに育むまちづくりのための「こらぶれーしょん」プロジェクト

研究代表者: 柴田 長生 (臨床心理学部教育福祉心理学科 教授)

現代は、子育て経験を伝承する環境が乏しくなっていると同時に、子どもの意欲・自尊心の低下、虐待、いじめ、自殺等、大人社会を反映した課題が山積しています。「子どもの豊かな育み」を支える保育関係者や子育て支援団体と提携し、豊かな保育を実現するための方法論(視点)の検討、「子どもの豊かな未来」を創生するための関係者の協働、現場職員のピアサポート等を研究目的とします。今年度は、自由保育場面における学生の参与観察や保育所保育士勉強会の開催、こらぶれーしょんセミナー(地域公開講座)の実施等に取り組めます。

地域パートナー
杉本 一久さん
(宇治福祉園・三室戸・Hana花・みんなのき保育園 総園長)



「今を生きる子どもたち」を真ん中に、人間の生涯を見通した「豊かな未来への協働」の第一歩、共に学び合い、実践する機会をいただきました。誰もが生き生きと暮らすまちづくりに向けてそれぞれが「こ(子)・らぶ(愛)・(り)れーしょん(絆)」すること。子どもの笑顔のように明るく生き生きと交流できましたら幸いです。

学内研究員
5名
学外研究員
2名

プロジェクト5
地域志向協働研究

対人援助のモラルの向上を目指した多職種相互乗り入れ型の研修プログラムの開発に関する研究

研究代表者: 吉村 夕里 (臨床心理学部教育福祉心理学科 教授)

学生、住民が参加する多職種相互乗り入れ(Interdisciplinary)型の研修プログラムを実施しています。地域生活に困難を抱える障がい者や認知症高齢者へのケアリングや相談支援の課題を解決するための事例検討方法と、専門家と非専門家、職種間のコンフリクトを解決するためのグルーブマネジメント研修プログラムの開発等の実証研究に取り組んでいます。福祉現場に従事する援助専門職と、住民や学生を対象としたワークショップや研修会を実施して、効果判定とプログラムの改良を重ねていきます。

地域パートナー
玉城 栄之功さん
(社会福祉法人新生活会サンビレッジ瑞穂 施設長)



研究会には様々な専門職が集いケース検討を重ねます。「人」との関わりに真摯に向き合い、その方の生活のしづらさをプロとしてどのように解決できるかを考え、当たり前の生活を継続できるように試行錯誤する。そして学問のプロである先生や学生との検討を通じ、実践の根拠を明らかにしていく。そのようなプロセスが「人」を支える力となり、地域の財産になればと考えています。

学内研究員
4名
学外研究員
1名

プロジェクト6
ともいき研究・住民参画型

宇治川周辺地域の防災・減災に向けた課題への取り組み

研究代表者: 澤 達大 (総合社会学部総合社会学科 准教授)

大学周辺の宇治市・京都市伏見区宇治川南岸地域は、かつて巨椋池があった低地帯のため、頻繁に大水害に見舞われてきました。近年は予測不可能な集中豪雨も多く、洪水を中心とする防災への備えは地域にとって重要な課題となっています。本研究では、災害時に備えた要援護者を守り、防災・減災意識を高め、災害時に安全な場所へ避難を促すための方策を考えていくものです。高齢化社会の中での災害対策や、災害発生時に重要となる地域住民間でのコミュニティ形成など、大学と地域が連携し、課題克服に取り組めます。

地域パートナー
奈佐 廣海さん
(北小倉地区民生委員児童委員協議会 会長)



北小倉地区民生委員児童委員協議会では、災害時に備え、要援護者を見守るために、特に事前の避難準備についてこれまで活動してきました。自分たちの今までの活動で、さらにプラスアルファできるもの、しなければならないものを大学のみなさんと共に見直していきたいと考えています。

学内研究員
3名
学外研究員
3名

学内研究員
1名
学外研究員
8名

プロジェクト7
ともいき研究・住民参画型

宇治3商店街の抱える課題の明確化と活性化に向けた方策の検討

研究代表者: 東 正志 (総合社会学部総合社会学科 講師)

本研究プロジェクトの目的は、①地域の商店街が抱える課題の本質の抽出と②商店街の発信力向上に寄与する活動の試行です。①では、宇治市の商店街が抱える共通課題・個別課題を整理する。その上で、「独自性の確立に成功した商店街」をモデルケースとし、当該商店街が「どのようにして課題を発見し、解決したのか」を明らかにすることで、宇治市の3つの商店街が抱える共通・個別課題を解決する糸口を模索します。②では、3つの商店街と周辺へのフィールドワークを行い、3商店街および周辺の魅力発見と発信を行います。

地域パートナー
佐脇 至さん(宇治橋通商店街振興組合 理事長)



これまで宇治橋通り商店街として、京都文教大学と様々な場面で連携してきました。本プロジェクトでは、3つの商店街の関係者が顔を合わせ、議論する機会が多く、互いに連携する場として機能しています。昨年度末には初めて3商店街共催でのイベントをすることができました。今年度も商店街間の連携が深まる形でプロジェクトが進んでいくことを期待しています。

プロジェクト8

ともいき研究・住民参画型

宇治の音風景100選

研究代表者：馬場 雄司（総合社会学部総合社会学科 教授）

学内研究員 1名
学外研究員 5名

1989年に実施された「名古屋音名所」を皮切りに、各地で「音名所」「残したい音風景」の選定事業が行われてきました。宇治市においても、宇治川や天ヶ瀬ダム、笠取山など、自然の豊かな地域では川の流れる音や鳥の声などの音が聞こえ、平等院表参道では、お茶を煎る音などが聞かれます。また、祭りの音、寺院の鐘の音なども地域の特色を表したものだといえるでしょう。音の魅力にあふれた宇治を再発見することは、地域住民・観光客、また視覚障がいをもつ方へのPRにつながるだけでなく、地域住民の住環境を見直す機会になると考えています。

塩田 俊樹さん（株式会社ワオネット 代表取締役）



故郷宇治、この街に溢れる様々な音を記録に残したい。そんな想いからの本プロジェクト。街の中心を流れる宇治川。宇治川を渡る鉄道。宇治のお祭り。製茶場。活気溢れる商店街。豊かな自然の鳥のさえずりや木々の声。宇治にはそんな音が沢山溢れています。これらの音を後世に残せる事は大変素晴らしい事であると思います。

地域パートナー

学内研究員 3名
学外研究員 2名

プロジェクト9

ともいき研究・住民参画型

グローバル化時代における地域の国際協力のあり方を探る

研究代表者：松田 凡（総合社会学部総合社会学科 教授）

グローバル化時代の今日、国際協力の主役は国家ではなく地域になりつつあります。地域住民主体の国際協力は、地域のアイデンティティを向上させ、また住民のグローバル・リテラシーを高めることによって、多くの地域課題への解決を可能にします。そこで本研究では、グローバル化時代における地域の国際協力のあり方について、まず現状の把握と具体的な課題を抽出するとともに、それらを共有しともに解決策を見いだすためのネットワークづくりやリーダー育成の手法を探ることを目的としています。

伊勢村 紀久子さん（宇治国際交流クラブ 代表）



ちょっと頑固？でも知恵で溢れるシニアも、今はエネルギー不足？でも多様な分野で期待される若者も、明るい未来が続いてほしいキッズも、異なった文化背景をもつ多様な国々からの人々も、障がいがあってもなくても、共に助け合い、補い合い、学びあい、刺激し合い、自然体で共に生きていける地域社会を目指して、多くの人々の夢と希望を実現するような共同研究でありたいと思います。

地域パートナー

学内研究員 3名
学外研究員 2名

プロジェクト10

ともいき研究・住民参画型

からだを通じてここに働きかける子育て支援

研究代表者：金山 由美（臨床心理学部臨床心理学科 教授）

本学心理臨床センターが「NPO法人子育てを楽しむ会」と共同で行ってきた子育て支援活動も、今年で6年目。その中で、声をあげて悩みを訴えることは無いものの、客観的に明らかな問題を抱える親子がずいぶん多いことを知りました。臨床心理士の言語的なアプローチにはなかなか心を開かないこういった方達も、子どもや親自身が身体を動かすことで心身がほぐれると、少しずつ言葉が解けてくる場合があります。本研究では、子育て中のお母さん達の身体に働きかけるアプローチを通じて、心理的な働きかけの糸口を見いだすことを目的としています。

迫 きよみさん（NPO法人子育てを楽しむ会 代表）



当会ではこれまで、日々忙しく子育てをするお母さんの「からだを整える」ことを目的とした事業をさまざまに行ってきましたが、今回の京都文教大学の先生方との共同研究で「からだ」と「こころ」の相互作用について改めて考える機会をいただいたと思っています。お母さんたちが身体も心も健康に子育てできることにつながる研究になればと思います。

地域パートナー

学内研究員 3名
学外研究員 3名

プロジェクト11

ともいき研究・住民参画型

新聞を通じて地域の子どものための地元愛を育む研究

研究代表者：橋本 祥夫（臨床心理学部教育福祉心理学科 准教授）

京都府南部地域は、高度経済成長期に人口が急増した地域が随所に見られ、年齢構成の急速な変化による担い手の高齢化ばかりでなく、地域のアイデンティティや地元愛を次世代に伝え、新しい地域の担い手を育成することが課題となっています。本研究では、城陽市市民活動支援センターと地元紙である『洛南タイムス』の協力を得ながら、地域取材し、新聞記事を作成するという活動を通じて、子どもたちの地域発見・地元愛育成の実践研究を行います。

奥田 奈々美さん（城陽市市民活動支援センター）



地域の子どもたちが『子ども記者』になり、自分たちの『まち』取材することで『地元』を考え、学ぶ機会とします。その記事を『新聞』というツールで発信することにより、同世代やその家族にも『まち』について考えるきっかけをつくり、地元への愛着心を育み、今後のまちづくりを考える担い手につながることを期待しています。

地域パートナー

プロジェクト12

ともいき研究・住民参画型

地域におけるセルフケア推進団体のネットワーク形成と地域社会に与える影響

研究代表者：濱野 清志（臨床心理学部臨床心理学科 教授）

学内研究員 1名
学外研究員 2名

日本は少子高齢化に直面し、政府は地域包括ケアを政策として打ち出しています。特に「認知症ケア」については、喫緊の課題としてオレンジプランの策定がなされました。これを受け京都府では、「京都地域包括ケア推進機構」を設け地域包括ケアの推進を図ると共に、国の期待する「認知症ケア」についての府内の施策を推進しています。これまでの研究結果を踏まえ、京都市伏見区、宇治市の地域住民が利用できるセルフケアに関連する講座を展開する団体間のネットワークを構築し、セルフケア講座に対する地域住民のアクセシビリティを高めることを研究目的とします。

坂部 昌明さん
（公益財団法人未来工学研究所 客員研究員）



「生きる」とは、自らが主体性をもって生きることだと思います。わたしは、誰もが健康な生活をおくるためには、「医療という他者から提供されるものを上手に利用すると同時に、自らも主体的に健康を得ていくように心掛ける」ことではないかと思っています。この研究は、自分のからだに気付き、その良好な状態を得るための方法を知り、そして実践したいと思う方にとって、きっと必要とされるでしょう。

地域パートナー

プロジェクト13

ともいき研究・住民参画型

まきしま絆の会、宇治市、京都文教大学が紡ぐ地域連携の創造—地域と結びつく親と子の絆づくり、子どもへの学習支援—

研究代表者：寺田 博幸（臨床心理学部教育福祉心理学科 教授）

学内研究員 4名
学外研究員 7名

一般社団法人マキシマネットワーク、NPO法人まきしま絆の会、宇治市と本学が地域を志向した教育研究を連携して行い、安全・安心な居場所を提供するとともに子育ての相談に応じたりする等の子育て支援をしています。現在、コミュニティカフェ「Reos 横島」を中心に、学習支援や読み聞かせ、工作体験などの取組を実施しています。本研究の推進により、保護者の不安感を取り除き、地域の子ども同士がかかわりあう機会を増やし学習支援を継続的にを行い、保護者どうしのつながりを促進し、親子の心の絆づくりを図ることを目指します。

田中 政代さん（Reos 横島）



昨年度から、子育て支援プロジェクトは始まり、会場のReos 横島には沢山のお子さんや保護者が来られています。子どもたちは、楽しそうに先生や学生さんと一緒に、宿題や読み聞かせ、手づくり工作に取り組んでいて、すごくイイ雰囲気です。まだまだ、子育て支援を必要としている方はいらっしゃるの、多くの方にご参加いただきたいですね。

地域パートナー

プロジェクト14

ともいき研究・産官学協働型

宇治市における愛着度形成に関わる政策提言のための研究

研究代表者：山本 真一（総合社会学部総合社会学科 准教授）

学内研究員 2名
学外研究員 1名

2013年度より取組みを進めている宇治市の魅力発信事業に関して、政策提言を目的として本研究を実施しています。宇治市では、2014年度に本事業のための市民参加による行動指針・計画の作成を行い、2015年度に対象施策を実施する予定です。昨年度より本研究に着手し、そこでは宇治市が2013年度に行った「宇治市のシティ・プレゼンテーション手法に関する調査研究（市の魅力発信に向けて）」に基づき、我々は分析を行いました。引き続き、今年度は昨年度の研究から得られた課題について詳細な分析を行い、宇治市に政策を提言する予定です。

本間 雅人さん
（宇治市政策経営部政策推進課企画係 係長）



住みたいと思える都市「宇治」ブランドの確立に向け、居住行動と愛着心の形成が密接に関係している点に着目して研究に取り組んでいます。今後、効果的な魅力発信により、愛着を持つ人々を増やし、宇治市の交流・定住人口の増加につなげていきたいと考えており、当該研究によって愛着を高めるための具体的な施策・手法が明確になるものと期待しています。

地域パートナー

プロジェクト15

ともいき研究・産官学協働型

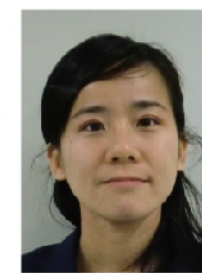
宇治市における文化発信イベントの手法研究

研究代表者：滋野 浩毅（地域協働研究教育センター 専任研究員）

学内研究員 1名
学外研究員 7名

宇治市にて平成3年より実施されている紫式部文学賞・紫式部市民文化賞記念イベントのよりいっそうの浸透・定着をはかるため、課題の抽出、内容の検討を行います。紫式部文学賞・紫式部市民文化賞記念イベントを皮切りとして、宇治市における各種文化事業の研究を進めながら、これまでの文化行政の課題を明らかにし、教育・観光などとの連携、市民協働の視点を加えた宇治市の新たな文化政策のあり方を検討するための基礎とすることを目的としています。

井上 美緒さん（宇治市市民環境部文化自治振興課）



第1回目の研究会では、現状の課題を挙げて研究テーマに関わる課題を抽出しました。その中でも、「市民は宇治市の文化事業や文化施策にどんなことを期待しているのか」を知りたいのは、職員に共通する課題でした。今後は、アンケートや聞き取りを通じて様々な意見を調査したいと思っています。また、学生の方々の協力を得ながら内容を検討していきます。

地域パートナー

市内の伝統的の家屋の保存・活用に関する可能性研究

研究代表者：小林 大祐 (総合社会学部総合社会学科 講師)

学内研究員 3名
学外研究員 4名

中宇治地域では多くの伝統的の家屋が現存していますが、年々その数は減少し、空き家も増加しています。観光資源でもある中宇治地域の歴史的景観を維持し、将来に向けて向上させる施策が求められています。本研究では、宇治市と協働し、伝統的の家屋の保存・活用検討のための調査、調査の分析結果からビジネスモデル可能性研究、地域遺産の認定制度構築に向けた可能性研究等を軸に中宇治の地域資源を活用した様々な取組みを行います。

平野 正人さん

(宇治市都市整備部 副部長 兼 歴史まちづくり推進課 課長)



宇治のまちづくりには、人口減少社会においても交流人口の増加につながる施策である「観光振興」を積極的に推進することが重要であると考えていますが、中宇治地域における空家の増加や伝統的の家屋の滅失などから、観光資源でもある歴史的風致の維持・向上への施策が喫緊の課題となっています。今回の研究において、伝統的の家屋の保存・活用に向けた新たな可能性を見出し、具体的な施策につなげていくことができればと考えています。

地域パートナー

地域コミュニティ活性化推進のための制度改革にむけた方策の検討

研究代表者：森 正美 (総合社会学部総合社会学科 教授)

学内研究員 1名
学外研究員 5名

2014年度、宇治市の「地域コミュニティ推進検討委員会」では、コミュニティ活動の課題を整理分析し、議論を重ね、今後のコミュニティ活動のあり方について提言をまとめました。今後これらの提言に基づき、実際の具体的な施策を実施するための検討に着手する必要があります。①課題の解決にむけての地区特性の整理、②地区特性を考慮にいたれた実施施策の検討、③検討のために参考となる先行事例やモデルを学習するための研究会や先進地視察の実施等、施策の制度設計に活かすことを本研究の目的とします。

青山 悠哉さん (宇治市市民環境部文化自治振興課)



少子高齢化やライフスタイルの変化、価値観の多様化などを背景として、町内会・自治会の加入率の低下や役員のなり手不足などが地域コミュニティの課題となっています。このような社会的背景の中、本研究では地域主体による地域コミュニティ活性化のため、行政としてどのような施策が必要なのか、地域連携ネットワークのあり方や仕組みづくりなど、有効な実施施策について探っていきたいと思っています。

地域パートナー

親子で楽しむおもしろさんすうとおはなしのせかい

研究代表者：亀岡 正睦 (臨床心理学部教育福祉心理学科 教授)

学内研究員 2名
学外研究員 2名

大学と隣接する向島地域の小学校において、子どものころからかたちや数の世界に遊び、そしてお話の世界に親子ともども親しむ機会として算数、国語の出前教室を行います。子どもの理数ばなれや本ばなれを防ぐとともに、親子のコミュニケーションを活性化し、算数好き、本好きな子どもの育成を家庭と学校、大学が一体となって進めます。家庭における教育環境をどのように支援し充実させるかということにかかわって、子どもの意欲面、学力面の課題解決を目指します。

清水 尚さん (京都市立二の丸北小学校 校長)



貴学の亀岡ゼミと山本ゼミの皆さんに、本校の「放課後まなび教室」参加児童を対象に「おもしろさんすうワールド」と「楽しいおはなしのせかい」を指導していただいています。子どもたちが、算数や物語のおもしろさを味わい、興味・関心を高めることは、学習への意欲を高めることに繋がると楽しみにしています。まだ始まったばかりですが、子どもたちは取組を楽しんでいます。学生さん方の工夫ある指導に期待しています。

地域パートナー

京都府南部地域における障がい者の就労支援に関わる研究

研究代表者：吉村 夕里 (臨床心理学部教育福祉心理学科 教授)

学内研究員 3名
学外研究員 7名

本研究では大学のリソースを活用して「障がい者の働き方」について新たなモデルを構築することを目的としています。これまでに、障がい者の就労支援の在り方に関わる研究会や、福祉専門職養成教育への障がい者の参画を図る事業、福祉施設と協働した学生への朝食サービス事業を行ってきました。大学内での障がい者への就労支援事業を京都府南部地域の障がい福祉サービス事業所や行政と連携し、実施することを通して、地域の障がい者の生活・就労支援と、ノーマライズされた環境のなかで様々な障がいや病を持つ人達と学生の交流の場を創出します。

西川 万志さん

(社会福祉法人伏見ふれあい福祉会 京都ふれあい工房)



障がい者の一般就労の実現を目指し「障がい者の働き方」に関する多様なモデル構築と個別性に合わせた柔軟な支援のあり方について研究を行っています。京都文教大学では障がい者と学生が「朝食サービス」に参加したり、障がい者が授業に継続参加しています。今後も大学と連携して「京都文教だからできる」取組を共に検討していきたいです。『はたらく』ことを通して障がい者の生活が充実できるような取組を応援していきます。

地域パートナー

精神障がい者の家族(ケアラー)への情報提供と支援に関する実践的研究

研究代表者：松田 美枝 (臨床心理学部教育福祉心理学科 講師)

学内研究員 1名
学外研究員 6名

宇治市を中心とする山城北圏域と伏見区には、精神科医療・福祉施設が多く、精神障がいを持つ本人とケアをする家族(ケアラー)がたくさん住んでいます。しかし、現在の日本の精神科医療は、本人の疾病へのアプローチが中心で、家族への支援は制度化されていないだけでなく、家族会の存在もあまり知られていないのが実情です。本研究では、精神障がい者家族が抱える困難やニーズを把握して、家族への情報提供リーフレットを作成し、京都府・京都府全域に配布・効果測定するとともに、これからの家族支援のあり方について検討を行います。

静 津由子さん (公益社団法人京家連 副会長)



昨今、無縁社会という言葉をよく耳にします。血縁や地縁が薄くなっていく中で、人が人らしくあり続けるために、どのような形が可能なのでしょうか。それは、共に同じ志をもって集まる「志縁」で人と人が結びつき、温かな交流で意思疎通を図りながら、連携することではないでしょうか。自利利他、ヒューマニズムといった、共通の精神を基盤にして、支援される側と同じ目線に立って働きかけることこそ重要であると考えています。

地域パートナー

ともいき講座

精神障がい者家族の体験を聴き、私たちにできることを共に考える

2015年7月6日(月)に実施しました。

7月6日(月)本学にて、ともいき講座・京都府南部地域まちづくりミーティング「精神障がい者家族の体験を聴き、私たちにできることを共に考える」(主催：平成27年度「ともいき研究」共同研究プロジェクト「精神障がい者の家族(ケアラー)への情報提供と支援に関する実践的研究」)が開催され、学生・地域住民合わせて約100名の方に参加いただきました。

講座においては、「京都中途障害者の会」会長の細田一憲氏と精神障がいを持つ当事者のご家族を招き、当事者と家族(ケアラー)の立場からお話をいただきました。その後、13のグループに分かれ、当事者や家族が抱える困難に対しどのような支援ができるか、求められている支援等について話し合いました。最後にグループごとに発表し、地域社会に求められている支援について理解を深める時間となりました。



◎ 宇治市高齢者アカデミー 1期生卒業研究発表会

～学びの成果を地域へ！～

宇治市高齢者アカデミーオープンキャンパスと宇治市高齢者アカデミー 1期生卒業研究発表会が6月21日(日)に本学で開催されました。

宇治市高齢者アカデミーは、宇治市・京都文教大学が連携し、宇治市在住の70歳以上の方を対象とした「地域志向生涯教育事業」として、平成25年9月より開講しています。アクティブシニアの養成や多世代交流を目的に、京都文教大学の学生とともに授業を履修し(週1回)、またアカデミーアワー(月1回・ゼミ活動)を行い地域課題の解決策について学ばれています。

1期生卒業研究発表会では、宇治の「地場産業」「交通」「教育」「文化」「地域福祉」の5つのテーマで、グループ毎に発表しました。山本正宇治市長、平岡聡学長に講評いただき、最後に1期生担任の松田美枝先生(臨床心理学部教育福祉心理学科講師)が全体講評を行いました。当日は延べ120名の方が来場し、会場は大いに熱気に包まれていました。

<研究題目>

- (1) 「宇治市の産業 手摘み碾茶製造販売 宇治抹茶の原料」
- (2) 「豊かなこころの健康を目指したい」
- (3) 「宇治市の義務教育における学力向上に関する提案」
- (4) 「日待講について」
- (5) 「高齢者社会における市民の足の確保について」



山本宇治市長と京都文教大学 平岡学長による講評



【(1)宇治茶】アカデミーアワーを利用し、発表会のリハーサルも行いました。



【(2)健康】



【(3)教育】



【(4)日待講】



【(5)交通】



発表会当日の様子。多くの市民の方にお越しいただきました。